

エマニュエル・リモルディ

『誰も聴いたことがない音楽。』ーエリソ・ヴィルサラゼ

ルーマニア人の母とイタリア人の父の間にミラノに生まれる。ミラノ・ヴェルディ音楽院でピアノ科と作曲科を卒業後、チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院ではエリソ・ヴィルサラゼ氏の下5年間研鑽を積む。トップ・オブ・ザ・ワールド国際コンクール（ノルウェー）に出場した際には、ショパンコンクール、ルービンシュタインコンクール、エリザベート王妃コンクール等の覇者を抑え見事優勝を果たす。その後、マンハッタン国際音楽コンクール（アメリカ）でグランプリ受賞及び、審査委員長を務めたイーヴォ・ポゴレリチ氏よりポゴレリチ賞の授与をきっかけに国際舞台に姿を現す。

トップ・オブ・ザ・ワールド国際ピアノコンクール優勝後、ノルウェーで演奏会やマスタークラス、ミラノ大学哲学学部では音楽と哲学の関係性についての講座を受け持つ。これまでに、カーネギーホール（ニューヨーク）、ウィグモアホール（ロンドン）、ルクセンブルク・フィルハーモニック、ガスタイクホール（ミュンヘン）、サル・コルトー（パリ）、ゲヴァントハウス（ライプツィヒ）、ハノーファー・北ドイツ放送フィルハーモニック、ローマ・オペラ座、ヴェルディ音楽院大ホール（ミラノ）、モスクワ音楽院大ホール、モスクワ国際音楽会館等で演奏すると共に、国際ベートヴェン・ホール音楽祭（メキシコ）、マイアミ・ピアノ音楽祭、キャストン音楽祭（アメリカ）、ドゥシニキ国際ショパン・ピアノ音楽祭（ポーランド）など数々の主要音楽祭に出演し、熱狂的な支持を得る。各地の新聞等でも絶賛された。

ドゥシニキ国際ショパン・ピアノ音楽祭での演奏はポーランド・ナショナル・ラジオで、ドイツ国内で行われたリサイタルは各地ラジオ放送局（NDR（ハンブルグ）、MDR（ライプツィヒ）、ARD（ミュンヘン））にて放送され、モスクワ国際音楽会館で行われたメトロ・コンサート・アート室内楽音楽祭での演奏はロシア国内テレビの文化チャンネルで放送された。

特にシューマンの解釈においてはパウル・バドゥラ＝スコダ、ラドゥ・ルプー、イーヴォ・ポゴレリチ、エリソ・ヴィルサラゼなどの巨匠が高く評価している。

2017年に行われたアメリカコンサートツアーを皮切りに、2018年には日本（東京、日経ホール・大阪、大阪大学会館ホール）、ドイツ（エルブフィルハーモニー・ハンブルグ、ムジークフロインデ・オルデンブルグ）、ロシア（モスクワ国際音楽会館、ソチ・フィルハーモニー）でデビュー。

2021年にはヤマハホール、白寿ホールでのリサイタルを始め、すみだトリフォニーホールで秋山和慶氏指揮の下新日本フィルハーモニー交響楽団とショパンピアノ協奏曲第2番を共演、好評を博す。

また公益財団法人福田靖子賞基金主催マスタークラスなどでは後進の指導にもあたる。

ヨーロッパでの演奏活動と並行して、サントリーホール、東京浜離宮朝日ホール、大阪のザ・フェニックスホール、名古屋宗次ホール、奈良の「なら100年会館」など日本各地の主要ホールで演奏。チェリストの山崎伸子氏、ヴァイオリニストの加藤知子氏など著名音楽家との共演を果たしている。

2024年5月に招聘講師として桐朋学園音楽部門でマスタークラスを行う。

2021年より日本在住。

2023年4月より名古屋音楽大学客演准教授就任。

2019年より演奏活動の後口ピーにて環境保全活動を行なっているWWFジャパン(世界自然保護基金)の活動を紹介するとともに募金を募る。